

放課後等デイサービス事業所における自己評価

討議年月日: 令和 3年 3月 31日

公表: 令和3年3月31日

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	0	0	8	・狭い。仕切りのある部屋が欲しい。(7)
	2	職員の配置数は適切である	4	0	4	・低学年が多くいる割には配置数が少ないので、人員増を図る。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8	0	0	・問題なし
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	0	1	・職員間での情報共有はなされている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	1	・今後、活用予定。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	4	2	・ホームページ上で公開する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	1	4	・第三者評価実施なし
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	1	・月1～2回で研修を実施している。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	0	・説明会、インテーク、契約、契約後も保護者と情報交換をし、支援計画に反映させている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1	1	・アセスメントシートはあるが、低学年のアセスメントシートとしては不十分なところがあるため今後改善したい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0	3	・個人任せにしていたところもあるので、活動計画を複数で検討するようグループ化したい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	1	1	・曜日により活動プログラムを作成しているが、微細運動や聞き取りに特化した活動が多いため、今後は粗大運動など他の機能向上を図るプログラムの導入を検討したい。

適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	1	2	・長期休暇には外出など平日にはできない活動を取り入れている。 ・平日、休日、長期休暇に関わらず、課題は毎日全員分個別に用意し、随時モニタリングしている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	1	2	・作成できている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1	2	・課題の用意で時間的に朝礼ができないことがあるため、毎日の実施を目指したい。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	2	3	・送迎で時間的に終礼ができない場合は、翌日の朝礼で情報共有を図りたい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	0	・支援記録を毎日作成し、アセスメントに活用している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8	0	0	・保護者とは日々、連絡ノート、メール、LINEなどで情報交換を行っており、課題認識を共有しており、必要に応じて支援計画の見直しを行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	6	0	2	・感染症の流行もあり、地域交流はできていないが、その他の活動に関しては十分な支援が提供できている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	1	0	・サービス担当者会議、学校の三者面談、学校のケース会議などは児童発達支援管理責任者が参加している。今後は、他の常勤職員(療育担当、心理指導担当)なども積極的に参加させる予定。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	1	0	・適切に行うことができている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	1	2	・現在は医療ケア児の受け入れはないものの、受け入れが発生したら積極的に連携を図りたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	2	3	・書面により引継ぎを受けられることができる自治体もある。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	4	3	・低学年が多いため該当児童がいない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1	1	・必要に応じて、情報交換をすることができている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	2	3	・感染症もあり現在は考えていないが、交流方法含め、今後検討したい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	2	4	・感染症もあり開催の機会が減っているが、今後、参加を検討したい。
28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	1	・連絡ノート、電話、LINE、メール、送迎時などで子どもの状況は保護者と共有できている。	

	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	1	4	・相談により保護者の対応力向上に関する支援は行っている。 ・プログラムとしてのペアレントトレーニングは常勤がトレーナー資格を得た後に開催を検討したい。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	0	・契約時に説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	0	・連絡ノート、電話、LINEなどで随時支援を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	4	3	・需要があり、保護者同士の交流は重要と考えているので、感染症の広がりの様子を見ながら、開催を考えたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	0	・適切に対応している
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	2	4	・連絡体制は発信している。会報は検討したい。
	35	個人情報に十分注意している	8	0	0	・鍵付きの書類保管庫が足りていない。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	0	・連絡ノート、電話、LINE、メールなど多くの情報交換ツールを用いて意思の疎通を図っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	3	5	・方法も含め、今後検討したい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	0	2	・マニュアルは策定し、職員の周知はしたものの、保護者向けはできていない。来年度実施予定。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	1	3	・来年度実施予定。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	1	・事業所内で研修を行っている。管理者は県の研修にも積極的に参加している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	1	1	・契約時に身体拘束の三要件（一時性、緊急性、非代替性）は必ず説明をしている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	0	3	・現在は無いが、今後アレルギーのある児童を受け入れた場合には対応したい。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	2	4	・該当事例があれば記載しているが、今後は掲示するなど職員間での共有化を図りたい。